

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100459		
法人名	有限会社ライフ・シップ		
事業所名	嘉瀬紀水苑		
所在地	佐賀市嘉瀬町大字荻野698番地		
自己評価作成日	平成30年2月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年3月19日	外部評価確定日	平成30年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様、ご家族様が「嘉瀬紀水苑で良かった」と思ってもらえるように支援に努めています。又、「楽しく」「なごやか」「すこやか」をモットーにご利用者様と全職員が、日々一緒に過ごし暮らせるようにしています。天候の良い日には、近隣散歩、森林公園ピクニック、花見見学ドライブ、スーパー買い物見学等、苑外活動と地域の方との交流会で「子供達とクリスマス会」、「おしるこ会」、「中学生の体験学習」等もご利用者様と一緒に楽しい一時を過ごされています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>玄関のアプローチには色とりどりの季節の花が置かれている。事業所周辺には田んぼもあり長閑な住宅地である。苑長宅が隣接していることも心強く、自然災害の避難先としても挙げている。事業所の特長は地域との交流が多いことである。中学生の体験学習の場として提供したり、子供達やその親まで苑行事に参加している。事業所として地域の役に立つならば応えていきたいという考えを持ち、例えば介護に関して相談に訪れる人や災害時に避難して来る人がいれば、常に門戸を開き受け入れる姿勢である。職員はチームワークによって作られている家庭的な雰囲気の中で歳を重ねるごとに低下する残存能力を見極めつつケアに努めている。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を全職員とつくり、その理念を共有して実践につなげている。	理念は開設時の職員達と一緒に創り上げたものである。途中一度だけ、より適切な言葉と変更したことはあるが、常に立ち戻る原点としているからこその見直しである。職員の目につく場所に掲示され意識付けを図っている。苑長は、和気あいあいとした雰囲気の中で、一緒に歌を歌い、利用者の笑顔を見る時、理念の浸透を感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の一人として自治会へ参加や「子供110番」、地域の子供達とクリスマス会、地域の方と「おしるこ会」で交流会を開催させて貰い地域の方が気軽に苑に来て頂けるよう日常的に交流している。	隣接して苑長宅があるため地域の情報は得られている。自治会に加入し、清掃活動にも積極的に参加している。子供達や地域住民を招く行事も多く、その際はポスティングではなく、挨拶をしながら各戸を回り案内状を手渡している。近所の一人暮らしの高齢者には拠り所となっており、認知症について専門知識を活かした貢献も出来るよう努めている。見守りや緊急時の助けなど住民との関係は築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて高齢者の方々に暮らしに役立てる事が無いか話し合いして地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご利用者様、ご家族様、地域包括支援センター様、自治会長様、民生員様がお出席して頂き自己評価や外部評価の報告や話し合い色々な意見を活かしながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議と同日に苑行事を行うことも多い。別開催によりメンバーに度々足を運んでもらうことへの配慮や、訪れる家族や地域住民にも会議に関わってもらえたらという思いからである。外部の人の目を通し広く意見が聞ける機会として期待が窺える。事業所に集う人々から忌憚のない意見を自由に言ってもらえるよう努め、出された意見は前向きに活かそうとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組み等を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政側とは質問や相談事も話しやすい間柄である。庁舎へ出掛けた折に直接会って話をすることもある。実直に対応してもらえる関係は築けており、行政側にも一緒に取り組む姿勢は窺える。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が勉強会、研修会で身体拘束をしないケアを理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間の戸締りのみです。	入居契約時に指針の説明をしている。グループ本部の研修や事業所内での勉強会もあり、事例集の読み返してケアの再確認をすることもある。職員は身体拘束の内容とその弊害も理解している。玄関に施錠はなく、もし外へ向かう利用者がいても行動を抑えることはない。職員の目配り等もあり安全な暮らしが支援されている。仮に不適切な場面が見られた場合はまず状況を尋ね、自分がされて嫌なことはないという基本を説く事としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が研修会、勉強会で高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ち、入浴時にはご利用者様の全身観察をして防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会で成年後見制度について学ぶ機会あり、必要な方には活用されるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様やご家族様との契約の締結や解約又は改定等の時は、十分な説明を行い理解と納得が得られるように、又、不安や疑問点を尋ねて理解・納得をして頂けるように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様ご家族様等が意見、要望、ご不満、苦情等と言える雰囲気づくりに努めて、運営に反映させている。	家族の来所は多い。毎月の利用料をあえて持参方式にもしている。その利用料送付時には近況などを記した苑だよりも同封され、家族には日常を垣間見ることによって安心感も与えている。なかなか来られない家族へは電話を掛けることもある。事業所では直接話ができる機会を大切にしており、あまり意見を言わない家族とも世間話など交えながら話しやすい雰囲気作りに努めている。運営推進会議と同日に家族会も開いており、何でも話してもらえよう努めている。訪れる家族にも高齢化がみられ健康面などへの配慮から声を掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を日頃より設けて、反映させている。	月一回の職員会議には休みの人も出席している。研修に参加した職員から伝達講習(勉強会)やカンファレンスが主である。限られた時間をスムーズに進めるために、会議内容を事前周知しておくなど工夫もみられる。意見は活発に出され、最近の例では人員配置が話し合われ、忙しい午前中の配置が見直されている。当外部評価の自己評価部分も職員達と話し合いながら作成している。また苑長にとっては働き易い職場であるよう配慮も必要で、勤務中であつてもリラックスやリフレッシュができるようお菓子などを差し入れ、皆で休憩を取ることにも勤めている。職員とコミュニケーションを図ることも常に心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働いて貰えるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながら学ぶ事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会をつくり、勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、御本人が困っていること、不安なこと、要望等を聞く機会を持ち、御本人の安心を確保できるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族等が困っていること、不安なこと、要望等をよく聞く機会を持ち、ご家族等の安心を確保出来るように関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、介護保険申請がされていない方、医療的に必要な方、施設に慣れられるか心配の方等に適した対処の方法を説明し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人と一緒に過ごし喜怒哀楽を共にし、利用者様から、色々と学ぶ機会が多く、暮らしを共にして支え合える関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問があり、一緒に外出があり、御本人の好物の差し入れが有り、一緒に寛がれて家族の絆を大切にしながら共に御本人を支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にされている馴染みの方や場所、近隣の方等が途切れないよう、支援に努めている。	入居にあたり、これまでの人間関係を把握するため、本人や家族、担当のケアマネジャーはもとより、利用していたサービス事業所、時には病院関係者からも話を聞き情報を集めている。歳を重ねる毎に盆正月の一時帰宅や年賀状、手紙を書く事は難しくなっているが電話の取次ぎは行っている。事業所が熱気球大会の会場に近いことから訪れた家族と一緒に観に行く利用者もある。様々な機会を見つけて支援したい気持ちは事業所にも窺えるが、体力や体調の変化も現実である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を全職員が把握し、共有し、孤立されることがないように、又、利用者様同士の関わり合いも持たれて、共に支え合える支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されても、利用者様やご家族等とのこれまでの関係を大切にしながら、お見舞い、相談等継続的に関わりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、全職員で情報を共有し、ご本人の意向に出来るだけ沿うように努めている。	一対一で傍にいる時には利用者の思いが聞けることがある。例えば入浴中の寛いでいるひとときや、隣りで話し相手をしている時がそれである。発語の少ない利用者とは日々の傾聴の積み重ねでもある。職員の名前を呼び意思表示してくれた例では、名前を伝え、呼んでほしいと願った職員の喜びにもなっている。聞き取ったことは伝達ノートや口頭で伝え合い共有され、そこからケアプランに反映させたこともある。自己評価には、強制や押し付けの支援にならないようにとも記している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、情報収集し生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事業所用方式アセスメント表を用いて、ご本人がより良く暮らして頂けるように、課題とケアの在り方についてご本人、ご家族、必要な関係者と話し合い、モニタリングし、それまでの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	設定期間は、入居して間もない頃は毎月、その後、三ヶ月毎、六ヶ月毎と利用者にあった期間を設けている。その間に変化があれば臨機応変に見直してもいる。本人の希望は日頃の関わりの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取るようにしている。家族からは、具体的なものより事業所に慣れ健康に暮らしてほしいという意見が多い。承諾を得たケアプランは日々、実施が確認され、毎月末にモニタリングも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様一人ひとりを支えるために、ご家族の状況、その時々生まれるニーズや要望に対応して、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、地域のボランティア、民生員、消防、教育関係等の関係の方と協働しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族等の希望を大切にし、又、納得が得られたかかりつけ医が、往診、受診されて事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在は全員が協力医をかかりつけとしている。入居時に変更を希望した利用者もあるが、協力医との医療連携など説明を受け納得しての判断である。他科受診には職員が付き添っており、結果の報告はできるだけ当日中に行っている。また病院を選んだり探す場合も、家族の要望に沿って支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づき、身体状態、経過等を看護職員に伝えて相談し、入居者様の健康管理や医療活用の支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は、安心して治療出来るように、また、できるだけ早期に退院出来るように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又、そうした場合に備えた連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用時の早い段階からご本人、ご家族等と話し合い、重度化した場合や終末期の看取り指針について事業所で出来る事等を説明し同意を得ている。かかりつけ医と地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。	入居契約時に指針の説明をしている。そこでは内容や手順、家族間の意思統一についても触れている。これまでに看取りの経験はないが、希望があればその用意はある。容態の変化に伴い、家族の気持ちも揺れ動くことを踏まえ、その都度、話し合いを重ねる事としている。職員の不安解消のためにも、日頃の勉強会ではテーマとして取り上げることもある。訪問看護との契約も検討中であり、本人や家族が安心して最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えて、全職員が応急手当、や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時に備えて利用者様が避難出来る訓練を全職員が身につけるように地域の協力体制を得られるように働きかけている。	年二回の避難訓練があり、うち一回は消防署の立会いもある。どちらも昼間帯に行い、夜間は想定のみである。近隣住民への周知や参加要請はしていないが、運営推進会議と同日のため地域の役職者であるメンバーは協力している。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器の使い方も承知している。火災警報器が作動すれば通報装置と連動するシステムが導入されており、非常食や水は隣接する苑長宅に備蓄がある。また自然災害での浸水には遠くを目指すより苑長宅二階を避難先としている。反省点や指摘があれば速やかに改善され、全員に周知している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格の尊重し、誇りやプライバシーに配慮しながら、言葉掛けや所在の把握を確認しながら安全に過ごされるように対応している。	トイレや入浴の場面では羞恥心等への配慮が最も必要である。入居して間もない頃は同性による介助とし、周囲に見え難い立ち位置や居室ドア、トイレのカーテンは閉めるなど基本的な事をきちんと行っている。接遇の研修もある。また個人情報の取扱いに対する意識は浸透しているものの、職員の会話には仕事柄の情報が含まれる事も多く、大きな声でのやり取りにはその都度、説いていく事としている。居室の名前表示や苑だよりへの写真等の掲載は入居時に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の希望や思い、自己決定が出来るように働きかけている。自分で決めたり、納得されながら暮らされている。強制や押しつけの支援とならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースを大切に、体調状態、気分などに配慮しながらご希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい理美容は、訪問にて支援させて頂いている。利用者様も気に入っておられる。身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事になるように一人ひとりの好みや形態、力を活かしながら利用者様と職員と一緒に食事をしている。	献立は日勤の当番職員が考えている。利用者には食べたい物を尋ねたり、冷蔵庫の中身からであったり一般の家庭と同じである。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な食材の時には代替えもある。できるだけ自分で口へ運んでほしいとの思いからスプーンや器の工夫もある。なかなか箸が進まない場合は声掛けや介助となるが、歳を重ねる毎に必要な人が増え、準備等を手伝える利用者もいない。職員は同じものを同じテーブルで食べ、献立や味付けの話をしながら介助も行っている。高カロリー食やゼリー、プリンなどの常備もある。また誕生日は当日に祝い、職員の手作りケーキが用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の一人ひとりの食事摂取量や栄養バランス、水分量(食事以外で1,000cc)が一日を通じて確保出来るように形態、品を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態、義歯洗浄、ご本人の力に応じた口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉掛けや誘導が必要な方等支援している。ご本人の習慣を活かしてなるべくトイレでの排泄や排泄の自立に向けての支援に努めている。	尿意も分かり自立している人も若干名いるが、任せたままでなくさりげない見守りも行っている。難しい場合を除き、日中はできるだけトイレでの排泄を主としている。チェック表があることで予測ができ、誘導が功を奏した例もある。入居後に紙パンツ類から改善した人や使用枚数が減った人がそれである。これは費用負担の軽減にも繋がっている。また便座回りには手摺りはもちろん、ひじ掛けと背もたれが一体となった器具が設置され、立ち座りを助け自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や運動への働きかけ等に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は一人ずつ、ゆっくり入って頂いている。希望やタイミングが必要な方に合わせて入浴を楽しんで貰えるように安全に配慮し、支援している。	入浴は週三回を目途に支援している。風呂の準備は毎日出来ているため希望があればその限りではない。拒む人にはタイミングの工夫や職員の誘導テクニックが活かされている。入浴しない日には清拭で対応することもあり、必要があればシャワー洗浄も行っている。体力の低下により浴槽の縁をまたぐことも難しくなっているが、足浴を同時に行うことで対応している。脱衣場の暖気を浴室に送り、ヒートショック対策にもしている。衣服の脱ぎ着は声を掛けながら、出来るところは本人に任せ見守っている。苑だよりによると冬至に柚子湯を提供し季節を感じてもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休息されたり、休憩、睡眠を取って貰っている。安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用されている薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努め、服薬の支援と症状の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、好きな事や楽しみ事、気分転換、散歩や買い物、気晴らし、嗜好品等支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には、戸外に出掛けて近隣散歩、花見ドライブ、森林公園ピクニックに出掛けて支援に努めている。ご本人の希望を聞かせて貰いながら支援している。ご家族や地域の人々と協力して貰いながら出掛けられるよう支援している。	本人の口から外出の希望が聞かれることはないが、話題を振れば興味は示してもらえる。事業所では日差しを浴びるメリットや五感の刺激も承知しており、車椅子使用であっても外の空気に触れてもらうことを大切にしている。買物をしなくても、スーパーを見て回るだけで喜んでもらえた例もある。バルサンによる消毒時も、近くの公園で全員が数時間を過ごし、散歩や外気浴の機会としている。天候や体調をみて当日、ドライブに出掛けることもある。近所への散歩では立ち寄り場所や声を掛けてくれる所もあり、全く外へ出ないという利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理出来る所持金。ご家族の要望に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な方へ御本人自らが電話をかけた、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幹線道路沿いの為に車音、暴風音等の騒音防止で二重サッシ窓、ホールの天窓から優しい光を取り入れている。又、中学生より頂いた千羽鶴を飾り、地域の方から頂いた提げもんや紙バルーンが居心地良く過ごせるようにしている。大きな曆を設け見えるように工夫しています。	道路沿いではあるが二重ガラスになった窓のため騒音は少ない。リビングには天窓から光が入り、天井二箇所には換気設備もある。トイレは、ドアではなくカーテン使用だが不快な臭いはない。建築時に和紙の脱臭効果を知り、壁紙は全て和紙である。手を触れる箇所や床は消毒液を使った拭き掃除を行い、浴室もきれいに掃除されている。対面式キッチンからは調理の音や匂いがして、利用者に食事時を知らせている。廊下に歩行を妨げる物はなく、壁際のソファでは食後に寛ぐ姿もみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が、思い思いに過ごされるように、ソファや椅子が有り、又、独りになれたり出来つように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族様と相談しながら、馴染みの物、仏壇、好みの物等活かして、ご本人が居心地よく過ごされるよう工夫をしている。	居室に持ち込む品物には、火気などの危険物以外に制限はない。掃除は毎朝、職員が行っている。居室の整理整頓に関しては担当職員がおり、衣替えの手配なども心掛けている。位牌などの持ち込みには落ち着いて過ごせるよう配慮も窺える。写真等を飾っていく家族もある。また希望すれば家族の宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない